

令和5年度岩手県伐木技術普及研修の実施について

1 はじめに

県内の伐木技術普及研修(以下「研修」という。)は、令和2年度以降各現地機関がそれぞれのフィールドで実施してきました。伐木技術指導員から「人数は多くて3名」「レベルに合わせたクラス分け」などの意見があり、本年度から、県内の研修はレベル分けをして実施することになりました。

2 準備、調整について

当林務部では、レベル分けを行うため、研修募集時に「事前アンケート用紙」を添付し、このアンケート結果集計をもとに3つのクラスで実施することとしました。

また、研修の前に伐木技術指導員3名(県南管内在住)と研修当日の計画の打合せを行い、9月8日に受講生8名と事業体職員の見学者2名の参加で研修を実施しました。

3 研修内容について

研修前半研修生は、初級と中級・上級に分かれて「チェーンソーの手入れ」などを受講し、後半は各クラスに分かれて伐倒作業の実施、切断面の確認を行いました。



自作研修資料、ボードの活用

初級クラスでは、ボードを活用したチェーン

ソーの安全装置、伐倒時の禁止行為についての講義があり、伐倒作業時におけるかかり木処理のロープ使用や受け口の正確さの必要性について講師から指導がありました。

また、中級・上級クラスでは、伐倒方向のガンマーク使用、正しい姿勢の再確認、年輪の状況によるツル幅の調整、かかり木の木回し手法など応用技術の指導があり、今後の作業に役立つ内容でありました。



伐倒方向の確認(体の中心で作業が基本)

4 おわりに

各クラスに分かれての研修を行ったことにより、受講生は充実した研修になったと感じており、今後は更に改善した研修となるよう講師と連携して取り組みます。



2段切とクサビ活用(中級)